













AUTOBACS SUPER GT Round3 鈴鹿サーキット 450Km RACE

















<公式練習 / 1位>

事前の鈴鹿テストのおかげで、今回走り始めからバランスが良く、予選、決勝とマシンの バランスをうまくコントロールして進めていく事が出来ました。

今年の新スペックタイヤは、路面のラバーが乗ってくると、より戦闘力を上げていけるタイヤをダンロップさんが作り込んでくれているので、決勝上位からスタート出来れば、自信ありました。昨年鈴鹿では2戦ともノーポイントで終わっており、苦手な部分もあり、決勝へのマシンバランスを保つ事が非常に難しかったのですが、ある部分を改良したことで、決勝へのタイヤへの負担を軽減し、持続性も昨年より大きく向上させることが出来ました。練習走行ではトップを取る事ができたので、予選に集中していきました。

















<公式予選 / 1位>

Q1は、井口選手が担当。朝のフリー走行でもNEWタイヤで予選シュミレーションも行い、 井口選手の好みもセットに入れつつ、Q1のアタックに入ります。4番手でQ1を終えます。 セクター1のタイムとコメントを聞いて、必要以上に触る必要がないなと判断し、 ウィングだけ空気抵抗を減らし、ストレート速度を上げるために減らしてQ2挑みます。 Q2は、いつものように自分が担当します。計測2周目にアタックに入りましたが、練習走行 とは比べ物にならないくらいのグリップ感。路面にラバーが乗る事でタイヤのグリップが 上がり、コーナーの奥まで飛び込める速度が上がります。しっかり合わせ込む事ができ、 自身13回目のポールポジションを取る事ができました。GT300での最多ポールの記録と 並ぶ事が出来ました。チームが作り上げてくれたマシンに感謝です。













< 決勝 / 6位>

今回は450キロのレースになるので、2回ピットが義務付けとなります。自分はスタート、 セカンドスティントを担当していきます。まずスタートからポジションをキープし、 マシンのバランスも良く、後ろを引き離していきます。ただ他車のマシントラブルで、 コース上にマシンを止められたことによって、8周目にSCが入ります。ここまでで8秒の マージンを作る事ができていたので非常に残念です。もっと厳しい展開なのは、 燃費が良い車両は、この8周の間にピットインをし、ピット2回義務付けのルールを1回 消化している車両が6台もいること。SCが入ると、GT300クラスの隊列を整えます。 そうすると本来通常のピット作業は1分程かかります。通常であればそれだけギャップが 出来るのですが、隊列を整えることで真後ろまで差を詰める事ができるので、1分半の 差が約20秒程の差に変わるので、自分達がピットに入ると確実に逆転されてしまいます。



















ただこの戦略を取るとタイヤも1回交換のみでないとメリットが出ないので、後半のペースが厳しくなりやすいリスクもあります。ですが、自分達はタイヤを2回変えて、コース上でどれだけ追い上げていけるかで展開が変わります。なので、とにかくコース上でハイペースで追い上げていくのみです。BRZも1回目のピット義務をこなし、コースへ戻ります。ただ給油が長いため12番手までポジションダウン。そこからまた追い上げ5番手まで戻ったところで、41周目に井口選手と交代します。本来50周近くまで引っ張りたいところですが、ここでSCが入るともうポイント圏内にも入れない可能性があるので、安全パイを見て早めのピットイン。ピットアウト後のポジションは6番手。トップグループは、自分達より

2秒程遅いペースで走行中。最後の最後で追いつける距離感でした。どこまでポジションを

戻せるかと思った矢先、他車の大クラッシュがあり、赤旗が提示され残念ながらレースは

終了となり、ポジションは6位でレースを終える事になりました。今回クラッシュされた

ドライバー2名は、無事に救出され無事でした。 まずは、そこが1番大事なことなので、 本当に良かったです。今回悔しい部分が多い レースとなりましたが、ただ速さはあるので、 ここから常に多くのポイントを毎戦取って いけるように頑張りたいと思います。 またご声援の方よろしくお願い致します。

